

# 人工知能学会誌・論文誌 原稿執筆案内

1993年5月1日改訂

(途中の改訂は省略)

2018年1月31日改訂

## 1. 原稿の投稿資格

本学会論文誌に投稿論文(第2項参照)を投稿する者は、原則として本学会会員(個人会員)に限る。ただし、投稿者が2名以上の連記の場合には、少なくともそのうち1名は本学会会員(個人会員)であることが必要である。

## 2. 原稿の種類

本学会刊行の原稿には、投稿による論文と、本学会から依頼する依頼原稿の2種類がある。原稿の目的、内容は次の通りである。

### 2.1 投稿論文

投稿論文には表1の種類がある。

表1 投稿論文の種類(2010年9月1日から)

種類	内容		ページ数* (刷上りページ数)
原著論文	コンセプト論文	斬新な発想による新しい概念や方式で、魅力的な内容で発展性があると判断されるもの。	ページ数の上下限は設けない。
	技術論文	人工知能に関わる完成度の高い研究について論じたもの。	原則 8p 程度
	実践 AI システム論文	人工知能に関わる実践的なシステムについての多様な知識やノウハウであり、会員が他の事例に展開可能な議論を含み、当学会がオンライン化する意義のあるもの。	
萌芽論文	人工知能に関わる発展途中の研究について論じた論文。		原則 8p 程度
速報論文	人工知能に関わる新しい研究開発成果の速報。		原則 2~4p

\*題目、図表、著者紹介などをすべて含めた原稿の枚数。

### 2.2 依頼原稿

依頼原稿には表2のような種類がある。

表2 依頼原稿の種類

種類	内容と刷上りページ数*
チュートリアル	初心者を含む会員が、人工知能に関する分野を知るための入門的な説明(原則 8p)
解説, アーティクル	会員が関心を持つ新しい技術, トピックスなどについての解説と幅広い話題を扱うアーティクル(原則 8p)
寄書, 随想, インタビュー 講演, 座談, 討論	学会活動, 人工知能に関連する動きについての意見など(学会役員のあいさつ, 報告などを含む) 学会活動に関連した講演, 座談会, パネル討論の報告
連載企画記事(1~4p)	会議報告(国内外の会議や討論会, 研究プロジェクトなどの報告.) 世界の AI, 日本の AI 私のブックマーク(特定のテーマに関する Web 情報源の紹介.) グローバルアイ() 学生フォーラム(研究室, 企業などの活動紹介.) 書評(会員に役立つ図書の論評, 紹介.) 文献紹介(会員に役立つ文献を要約して紹介.) など.

\*題目、図表、著者紹介などをすべて含めた原稿の枚数。

表 3 論文該当分野

大分類	小分類
基礎・理論	論理・推論, 知識表現, 探索, プランニング, 制約充足, 最適化, 不確実性, 複雑ネットワーク, その他
機械学習・データマイニング	分類学習, クラスタリング, 強化学習, データマイニング, テキストマイニング, 可視化, 知識獲得, その他
知識の利用と共有	知識共有, 知識ベース, オントロジー, エキスパートシステム, BRMS, ナレッジマネジメント, その他
Web インテリジェンス	セマンティック Web, Web 検索, Web マイニング, Web コミュニティ, Web インタラクション, Web サービス, コンテンツ作成支援, その他
エージェント	ヒューマンエージェントインタラクション, エージェント設計, マルチエージェントシステム, 協調問題解決, エージェントシミュレーション, オークション, その他
ソフトコンピューティング	ニューラルネットワーク, ファジィ, 遺伝的アルゴリズム, 遺伝的プログラミング, 進化学習, 人工生命, その他
自然言語処理	自然言語理解, 対話処理, 意図・談話理解, 機械翻訳, 情報検索・抽出・分類, 要約, 質問応答システム, その他
画像・音声	パターン認識・理解, シーン理解, 動画像処理, 音声認識・理解, 音声対話, 視覚心理モデル, ジェスチャー認識, その他
ロボットと実世界	知能ロボット, ロボットの知的処理, ヒューマンロボットインタラクション, 環境認識, センサーネットワーク, その他
ヒューマンインタフェース・教育支援	知的インタフェース, ヒューマンコンピュータインタラクション, 推薦システム, 仮想・拡張現実感, 空間共有, 知的学習支援, e-ラーニング, コミュニケーション支援, その他
AI 応用	産業システム, 社会システム, バイオインフォマティクス, マルチメディア, e-コマース, 音楽, ゲーム, エンタテインメント, その他

### 3. 原稿の体裁と書き方

#### 3.1 L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X による原稿の書き方

投稿論文については、投稿用のスタイルファイルを用いた L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X 原稿(以下 L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X 原稿と呼ぶ)による投稿を原則とする。この場合、学会誌に掲載される刷上りイメージでの投稿となる。

L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X は ASCII 版日本語 L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X を基準とするが、印刷時に問題のない範囲で NTT 版等別の L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X も使用できるものとする。この場合、L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X の違いによる印刷イメージの差の修正は執筆者の責任とする。

事務局側で印刷したものを著者に送って確認を行なう。最終的なカメラレディー原稿は事務局側で作成する。

人工知能学会スタイルファイルの入手先：[http://www.ai-gakkai.or.jp/journals\\_of\\_jsai/journals\\_download/](http://www.ai-gakkai.or.jp/journals_of_jsai/journals_download/)

UNIX の tar 形式+GNUzip 圧縮。この中の README.1st を最初に読むこと(テキストエディタで読めない場合には、WWW ブラウザで見ること)。このパッケージはスタイルファイルの使用法 guide.tex などを含む。

また、L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X を使わない場合もこの中の guide.pdf に従うこと。

L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X による原稿の書き方についての問い合わせは、電子メールで [editor@ai-gakkai.or.jp](mailto:editor@ai-gakkai.or.jp) 宛に行なうものとする。

#### 3.2 L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X を用いない原稿の書き方

ワードプロセッサ原稿 (word) は、事務局 ([editor@ai-gakkai.or.jp](mailto:editor@ai-gakkai.or.jp)) から スタイルファイルを入手すること。

#### 3.3 原稿の書式

L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X により原稿を作成する場合、スタイルファイルと同時に配布する guide.tex (guide.pdf)の指示に従うこと。

タイトル等 原稿第 1 ページに、標題、著者名、所属先を和・英文で記す。さらに、参照に役立つ 2 ～5 語の英文 Keywords を付す。

## 英文 Summary(投稿論文のみ)

論文、技術資料には内容概要を「Summary」として英文 200~500words にまとめて書く。  
ショートノートには「Summary」として英文 200words 以内にまとめて書く。依頼原稿には不要である。

本文	まえがき、本論、むすびの順とすることが望ましい。
付録	長い数式の誘導、装置やシステムの詳細説明などが必要な場合、本文を読みやすくするため、本論文からはなして付録とする(ただし、付録もページ数計算に加える)。
参考文献	原稿末尾の参考文献は著者名のアルファベット順に列挙する。
著者紹介	投稿論文、依頼原稿のチュートリアル、解説の末尾に掲載する。刷上りページ数には著者紹介も含まれる。略歴は 200 字以内とし、氏名、正会員・学生会員の別、出身(または在学) 学校学部学科名と修了年次、職歴、現職と職務、受賞、学位、主な所属学会などを記入する。
使用文字など	(1)特別な場合を除き、常用漢字、新仮名遣い、アラビア数字を用いる。 (2)専門用語については簡単な用語説明を添えることが望ましい。本文中に使用する記号には必ず説明をつける。 (3)数字、ローマ字、ギリシャ文字、記号などは特に明瞭に書くこと。大文字、小文字、書体、上つき、下つきの別も見分けられるように記す。 (4)数式は別行として、複雑な式は 3,4 行を用いて書くこと。文中に式を挿入する場合は $a/b$ , $\exp(x/y)$ のような記法を用いる。 (5) $\text{\LaTeX}$ 原稿を作成する場合、スタイルファイルは、本誌の組版体裁に従って、各種パラメータと出力形式を変更している。したがって、レイアウトにかかわるパラメータの変更は絶対に行わないこと。

- 図、表などの書き方 (1)和文原稿の図(写真を含む)、および表は和文とし、一連番号を付け、説明を記す。英文原稿の図(写真を含む)、および表は英文とし、一連番号を付け、説明を記す。  
(2)図面および写真は、刷上り原寸大の見本を添えて、電子データ入稿を原則とする。  
(3)  $\text{\LaTeX}$  原稿以外の場合、図、表の挿入位置を原稿の右欄外に示すこと。

- その他の細則 (1)英文タイトルは前置詞、文中冠詞、接続詞等を除き、Journal of the Japanese Society for Artificial Intelligence のように単語の頭を大文字で記述すること。  
(2) Keywords は略称、特別な場合を除き全て小文字で記述すること。  
(3)文献を複数引用する場合は[Quinlan 86][Dempster 77]とせず、[Dempster 77, Quinlan 86]のように一つにまとめ、[Quinlan 93]とラベルと年代の間にスペースを入れること。  
(4)表のキャプションは表の上に、図のキャプションは図の下に出力すること。  
(5)参考文献は(和・英を含め)アルファベット順に並べること。

## 4. 英文論文について

原著論文、速報論文、萌芽論文などの各種論文については、英文も受け付ける。原稿の体裁、書き方は本執筆案内に準ずる。題目に和文を付す必要はない。

## 5. 原稿の投稿時の送付について

### 5.1 原稿の送付先 ( editor@ai-gakkai.or.jp )

原則として投稿論文は「本原稿」と「著者名、所属、著者紹介がブラインドレビューになったもの」1部ずつ2編をPDFで作成し、電子メールの添付ファイルとして送付すること。

### 5.2 「投稿通知」

投稿論文(原著論文、速報論文、萌芽論文)

該当分野(「論文該当分野一覧」参照)、標題、著者名、所属先、Keywords、Summary、和文概要、連絡先、「論文著作権を人工知能学会に譲渡する」旨、「著者全員で二重投稿論文でないことを確認した」旨を記し、上記電子メールの本文(プレインテキスト)として送付すること。関連する研究を他学会等に投稿中の場合には、二重投稿の疑義を避けるために論文の差異の説明、および該当論文の添付をすることができる。

### 5.3 再投稿論文の扱いについて

過去に不採録と判定された論文を修正し、その時の査読者に再度査読されることを希望する場合は、その旨を明記し、その

時の受付番号を記入すること。さらに、過去の不採録理由にどのように対応したかを記載した「回答文」を添付することもできる。ただし、以前不採録判定を下した査読者が再査読を担当するとは限らず、最終的な査読者の決定は、編集委員会が行う。

## 6. 学会での原稿の取扱い

- ① 事務局で受理した後、論文担当委員を選定し、受領メールを送付する(投稿論文のみ)。
- ② 査読、閲読について  
投稿論文は、原則として、担当編集委員が二人の査読者の並列査読に基づいて審査し、編集委員会で次のいずれかに決定する。  
ただし、編集委員会が不適切と判断した場合は通常の並列査読を経ず採否を決定する場合がある。

### A 採録

**B 照会**・・・著者に照会して回答または修正などを求め、改めて査読を行う。

**C 不採録**・・・③項に示す場合には不採録とし、理由を付けて著者に返却する。

### C1 萌芽論文に推薦

論文よりも萌芽論文に適し、会員に有用な情報を含んでいるとき、理由と、萌芽論文に推薦する内容項目を付して、著者に返却する。

### C2 速報論文に推薦

論文よりも速報論文に適し、会員に有用な情報を含んでいるとき、理由と、速報論文に推薦する内容項目を付して、著者に返却する。

③ 投稿論文(原著論文、萌芽論文、速報論文)を不採録とする場合。

- a. 当学会の分野でない場合。
- b. 本質的な誤りがある、あるいは客観的に認知できない内容である場合。
- c. 内容の程度が低く、論文としての新規性、重要性がない場合。
- d. 他論文誌、雑誌に既発表、または公知の場合。
- e. 難解、形式不完全で改良される見込みがない場合。

④ 最終原稿の提出と校正

査読を通った論文については、 $\text{\LaTeX}$  原稿を [journal@ai-gakkai.or.jp](mailto:journal@ai-gakkai.or.jp) に送付する。

事務局では校正刷り(PDF)を作成し著者に送り確認をお願いします。校正の際に元原稿、原図面などの訂正は原則として認めない。 $\text{\LaTeX}$  原稿の場合、著者は校正で直す箇所をハードコピー上で赤を入れることを原則とする(この場合ソースファイルの修正は編集側で行なう)。

## 7. 著作権およびその他の権利についての注意事項

### 7.1

採録論文の著作権は原則として本学会に帰属するものとする。著作権が所属機関にある場合などで、本学会に帰属することが困難な場合は投稿時に申し出、取り扱いを協議する。

### 7.2

執筆に際しては著作権法等関係の法律を遵守し、著作権、肖像権、個人情報等につき、以下の項目を十分留意すること。

- ・他人の著作権、肖像権、名誉、プライバシー等の権利を侵害しないこと。
- ・他者の著作物の引用にあたっては、著作権法に遵守し、公正な慣行に合致し、引用が必然であること、すでに公表されている著作物であり、正当な範囲内で、引用部分が明確であることを確認し、出所を明示すること。
- ・自らの著作物の引用にあっても、権利者の権利を侵害しないこと。
- ・実験や他の著作物から得た生存する個人に関する住所、氏名等個人情報、身体、職種、映像等の個人に関する情報は、個人が特定できないよう適切な処置を行うこと。また、個人や法人に関わる情報の記述にあたっては、学術上の必要性を十分に考慮し、匿名化等の配慮を行うこと。
- ・特定の契約により入手した情報は、契約を遵守し、正当な利用であり、適切な公開方法であること。
- ・犯罪等違法行為を助長・推奨することがないこと。

執筆内容が第三者の著作権等の権利を侵害する、あるいは損害を与えたとの指摘がなされた場合は、執筆者はその対応にあたり、責を負う。

## 8. 二重投稿

執筆に際して、投稿論文が二重投稿に該当しないことを確認すること。執筆者が、執筆者を著者に含む既発表または投稿中の文献と同一内容または極めて類似した内容を本学会に投稿した場合、二重投稿に該当する。ただし、既発表または投稿中の文献が、以下の場合には二重投稿にはあたらないものとする。

- ・ 学士論文・修士論文・博士論文。また大学や企業のテクニカルレポート等
- ・ 本会や他学会の大会・研究会・ワークショップの予稿集・プロシーディング等
- ・ 国際会議の予稿集・プロシーディング等
- ・ 書籍、新聞記事、特許、プレプリントサーバに投稿された論文等

なお、本学会においては二重投稿に当たらなくとも、他方の学会等において二重投稿や著作権の問題が生じないよう確認すること。

## 9. 論文掲載料／別刷料金

投稿論文は表4の論文掲載料（オンライン論文誌，学会誌上への概要の代金を含む）の支払いを義務とする。

表4 投稿論文（論文，ショートノート，技術資料）論文掲載料（送料を含む，単位円）

ページ数	請求額（別刷なし）	別刷（10部）	ページ数	請求額（別刷なし）	別刷（10部）
1	15,000	1,000	8	120,000	2,000
2	30,000	1,000	9	150,000	2,250
3	45,000	1,000	10	180,000	2,500
4	60,000	1,000	11	195,000	2,750
5	75,000	1,250	12	210,000	3,000
6	90,000	1,500	13	225,000	3,250
7	105,000	1,750	14	240,000	3,500
			15	255,000	3,750
			16	270,000	4,000

以下，1ページ増につき，掲載料金15,000円，別刷250円増。

依頼原稿で別刷を希望するときの別刷料金は表5である。

依頼原稿の別刷は著者校正の際，同封される申込書に希望部数を記入して申し込むこと。

表5 依頼原稿別刷価格表（送料を含む，単位円）

部数 ページ数	PDFのみ	別刷100部のみ (別刷200部のみ)	PDFと 別刷100部	PDFと 別刷50部
1～2	10,000	10,000 (12,000)	15,000	14,000
3～4	20,000	20,000 (24,000)	30,000	28,000
5～6	30,000	30,000 (36,000)	45,000	42,000
7～8	30,000	40,000 (48,000)	55,000	51,000
9～10		50,000 (60,000)	65,000	60,000
11～12		60,000 (72,000)	75,000	69,000
13～14		70,000 (84,000)	85,000	78,000

使用にあたっては以下のことをお守りください。

### PDFの使用範囲

1. メールなどによる個別の論文別刷り請求に対して，再配布しないことを条件に配布する。
2. 印刷して，講義やセミナーの出席者に配布する。

### 禁止されている再配布行為

1. 購入したPDFファイルはWeb ページに置いたり，メール自動配信機能などを使ったりして不特定多数の人に配布すること。